

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察注意報第1号について（送付）
このことについて、平成17年度病害虫発生予察注意報第1号を発表しましたので送付
します。

注意報

平成17年度発生予察注意報第1号

平成17年6月30日

熊本県病害虫防除所長

農作物名 カンキツ（特に中晩柑類：甘夏、ネーブル、河内晩柑、晩白柚等）
病害虫名 かいよう病

1 予報内容

- (1) 発生地域 県下全域
- (2) 発生時期 7月以降
- (3) 発生程度 平年比 多

2 注意報発令の根拠

- (1) 昨年の台風の影響で比較的感受性の低い温州にも、かいよう病の病葉が見られ、伝染源が多い状況である。
- (2) 5月の巡回調査では新葉の発病葉率1.0%（平年0.7%）と平年並であったが、6月の調査で発病葉率が7.3%（平年2.1%）と高くなった。
- (3) 6月24日福岡管区気象台発表の1ヵ月予報によると、7月の降水量は平年並が予想されており、梅雨期の降雨が続くと病気が急激に蔓延する恐れがある。
- (4) 昭和63年以降に発表された、かいよう病の注意報は6回あるが、それらの発令時の発病葉率に比べ、最も発病葉率が高い。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や枝は伝染源となるのでなるべく除去し、園外に処分する。
- (2) 防風樹や防風網を適正に管理し、強風による枝や果実の損傷を防ぐ。
- (3) 防除に当たっては、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用したコサイドDFやZボルドーなどの無機銅水和剤を散布する。
- (4) 夏秋梢のミカハヅリガの食害痕には、本病が発病しやすいので本虫の防除を徹底するかせん除する。
- (5) 台風襲来が予想される時は、襲来前に抗生物質殺菌剤で予防散布に努める。

（参考）近年のカンキツ類かいよう病、注意報発令時の発病葉率

発令時期	調査月	発病葉率%	発生程度
昭和63年7月4日	6	2.8	多
平成3年7月3日	6	3.2	やや多
平成4年4月3日	3	5.2	多
平成4年7月6日	6	4.4	多
平成5年8月3日	7	6.3	やや多
平成10年6月8日	5	2.6	やや多
（本年）	6	7.3	多